

# 小学部 算数科 学習指導案

日 時：令和4年9月16日（金）

9：35～10：20

場 所：小学部棟 もも組教室

対 象：Bグループ 4名

授業者：中島 拓也 後藤 みゆき

1 題材名 『動物園ゲーム』で、えさの数を比べたり、足し算や引き算でえさの数を計算したりして、動物にえさをあげよう

## 2 題材目標

題材目標		学習指導要領の扱う内容
F	知 『動物園ゲーム』で数字と同じ数量の数対象を選ぶ時、数字が表す数量がわかり、数字と対応する数対象を数えて置くことができる（0～10まで）	小学部2段階 A数と計算 【知識及び技能】 ア（ア）㊸ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。
	思 『動物園ゲーム』で0～10（個）の数字で示された表示を見てえさ箱の中からえさ積木を必要な数だけ取り出す時、表示している数字が表す数量について考え、必要な数量を判断し、数字と同じ数量のえさ積木を取り、えさ皿に用意することができる	ア（ア）㊹個数を正しく数えたり書き表したりすること。 【思考力・判断力・表現力等】 （イ）㊸数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味を持って生かすこと。
	学 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとしている	【学びに向かう力・人間性等】 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。
C	知 加法や減法の問題文を読んで立式する時、繰り上がりのある加法（和は20まで）、繰り下がりのある減法（被減数は18まで）の意味と計算の仕方がわかり、加法と減法の計算が確実にできる	小学校1年生 A数と計算（2）加法、減法 【知識及び技能】 ア（イ）加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
	思 様々な加法（和は20まで）、減法（被減数は18まで）の問題文を読んで、数量の関係に着目し、加法と減法のどちらが用いられるかを判断して立式したり、加法と減法の問題を作ったりして、確実に計算をする	ア（ウ）1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。 【思考力・判断力・表現力等】 イ（ア）数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。
	学 数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている	【学びに向かう力・人間性等】 数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。（学年の目標）

## 3 教材等



4 題材計画（全10時間の5時間目） ※別紙資料にA3別紙で記載

5 題 目 『動物園ゲーム』で、数字と同じ数のえさをそろえたり、足し算や引き算の式を立てて計算したりして、動物にえさをあげよう

4 題材計画

		一次		二次					三次				
児童	時数	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	8	9	10		
F	知・技	場面	6 (個) の		7~8 (個) の	9~10 (個) の	6 (個) の	7~8 (個) の	9~10 (個) の	0~10 (個) の			
		わかること	数字と同じ数量の数対象を選ぶ時										
		できた姿	並べる			無作為に置く			並べる		無作為に置く		
		配慮的に扱う内容	数字と同じ数量の数対象を取り出して置くことができる										
	思・判・表	具体的状況	数字と同じ数量の数対象を揃えることに興味・関心をもつ										
			数詞と同じ数の数対象を作る										
		表画像	えさ皿に示してある										
			6 (個) の	7~8 (個) の	9~10 (個) の	6 (個) の	7~8 (個) の	9~10 (個) の	0~10 (個) の				
	主体的な姿	粘り強さ 学習を調整	えさ箱に並べられた同じ形のえさ積木の中から		えさ箱に無作為に入っているえさ積木 (同じもの) の中から			えさ箱に並べられたえさ積木の中から		えさ箱に無作為に入っているえさ積木の中から			
			動物のえさを必要な数だけ取り出す時										
表示している数字が表す数量について考え、必要なえさの数量を判断し、えさ箱の中から数字と同じ数量のえさ積木を取り、えさ皿に用意することができる													
□数対象を自ら操作して学習に取り組む <sup>展</sup>			□自ら数対象を操作して学習に取り組む <sup>展</sup>		□教師を呼ぶなどして、やり方や正しい答えを知ろうとする <sup>発</sup>		□自らえさ箱へ行き、えさ積木の数を数えながら表示された数字と同じ数のえさをえさ皿に用意する <sup>発</sup>		□課題にくり返し正解し、最後まで学習に取り組む <sup>発</sup>				
		□数字 (5まで) と同じ数対象を正しく取り出す <sup>展</sup>		□振り返りの時間に、動物にえさを用意した活動の内容を教師と一緒に発表する <sup>終</sup>									
		一次		二次					三次				
児童	時数	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	8	9	10		
C	知・技	場面	9+4のような1位数+1位数で繰り上がりのある問題文「合わせていくつ」(和は20まで)を読んで立式した後		/		2位数 (18まで) -1位数の問題文「のこりはいくつ」(繰り下がりなし)を読んで	12-9のような2位数-1位数で繰り下がりのある問題文「のこりはいくつ」(被減数は18まで)を読んで立式した後		/			
		わかること	加数を分解して10のまとまりを作り、「10とあと3」などの数の見方がわかり				減法が用いられることがわかり	被減数を「10とあと2」などに分解して、10のまとまりから減じる計算の仕方がわかり					
		できた姿	4を「1と3」に分解して加えて「10と3で13」などと答える				立式して、正しく計算ができる	12を「10と2」に分解して、「10から9を引いて1、2を足して3」などと答える					
		配慮的に扱う内容	文章問題を読み、立式して計算するという課題をもつ				「もらいました」「来ました」などの様々な加法のキーワード						「どっちがいくつ多い」「どっちがいくつ少ない」「ちがいはいくつ」などの様々な減法のキーワード
	思・判・表	具体的状況	1位数+1位数で繰り上がりのある問題文 (和は20まで) を読んで立式した後		繰り上がりのある様々な加法の問題文 (和は20まで) を読んで		/		2位数-1位数で繰り下がりのある問題文 (被減数は18まで) を読んで立式した後		繰り下がりのある様々な減法の問題文 (被減数は18まで) を読んで		
		表画像	10のまとまりに着目し、計算の仕方をブロックや図、式などを用いて考え、		様々なキーワードに着目し、加法であることを判断して立式し、				10のまとまりに着目し、計算の仕方をブロックや図、式などを用いて考え、		被減数を分解して10のまとまりを作って計算をする		数量の関係に着目し、加法・減法のどちらが用いられるかを判断して立式したり、加法・減法の問題を作ったりして、確実に計算をする
	主体的な姿	粘り強さ 学習調整	□スケジュールを手掛かりに活動に取り組む <sup>導</sup>		□筆箱などプリント学習の準備を進んでする <sup>展</sup>				□問題文を自分から読む <sup>展</sup>		□自分から問題文のキーワードに印をつける <sup>展</sup>		
			□プリント学習が終わったら主指導者に報告する <sup>終</sup>		□複数のプリントから取り組みたいプリントを選ぶ <sup>展</sup>		□文章問題を解いた後、教師に加法で (減法で) 立式した理由や計算の仕方を説明する <sup>展</sup>						
			□分からないときに、「分からない」「教えてください」と教師に伝える <sup>展</sup>										